

「まちの駅」を開設し、コミュニティ機能を担い商店街の賑わいを創出

鹿角市十和田商工会

機関名	鹿角市十和田商工会（現：かつの商工会十和田支所）		
所在地	秋田県鹿角市十和田毛馬内字城ノ下29		
電話番号	0 1 8 6 - 3 5 - 3 2 7 9		
地域概要	(1)管内人口	3万9千人	(2)管内商店街数 - 商店街
事業の対象となる 商店街の概要	(1)商店街数	- 商店街	(2)会員数
	(3)空店舗率	20%	(4)大型店空き店舗数 - 店
商店街の種類	1.超広域型商店街 2.広域型商店街 3.地域型商店街 4.近隣型商店街		

【事業名と実施年度】

平成14年度 空き店舗対策事業

空き店舗を活用して、商店街と消費者の交流の場を設置し、各種催し物や展示会、会議、カルチャー教室、町の情報提供サービス、アンケート調査等を実施

総事業費

4,023千円

【事業実施内容】

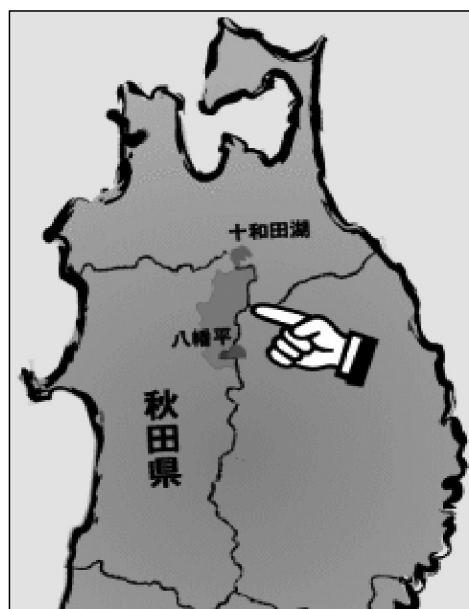
1. 背景

秋田県鹿角市は北東北3県（秋田・青森・岩手）のほぼ中央、秋田県の北東部、奥羽山脈を形成する花輪盆地に位置している。面積の約8割が林野であり、鹿角盆地の中心を流れる米代川や支流の大湯川、熊沢川などの流域は古くから農業が栄え、台地ではりんごの生産も盛んである。

当地域では平成13年11月に(株)ユニバース（大型食品スーパー、本社：青森県八戸市）が、平成15年5月にマックスバリュウ毛馬内店がオープンする等、大型店やディスカウントストア等の進出が相次ぎ、商業環境の変化が著しい状況にある。当地域唯一の商店街である毛馬内本通り商店街は、急激な時代の変化に対応しきれず、不足業種、商店密度の低下等、商業活動が停滞し、その機能は失われつつある。

このような状況を踏まえ、毛馬内商店街が、「毛馬内ビジョン2008アクションプログラム」（平成11年策定）

に基づき、商店街としての基本的機能の回復を図るとともに、少子高齢化に対応した地域生活者の利便性向上を図るため、本事業を実施した。



鹿角市の位置

2. 事業内容

(1) まちの駅「こもせ」(買い物情報発信基地)の開設

1) 施設概要

商店街の中心地に位置する空き店舗(旧スーパー跡)を利用して、買い物弱者等を含めた地域生活者の快適性・利便性の向上、商店街の賑わいの創出を図るための拠点施設、また地域情報の発信基地としてまちの駅「こもせ」を開設し、その施設の機能や実施事業内容について、実施・検討を行った。



まちの駅「こもせ」の様子

①事業開設期間 平成14年6月24日～平成15年2月28日

②開設時間 午前10時～午後7時

③開設場所 鹿角市十和田毛馬内字毛馬内9番地(旧スーパー)

④配置人員 2名(日替わり交代で常時1名在中)

⑤施設規模 126.29㎡

2) 施設機能

①集い・憩い(交流)の場の設置

休憩場所や集いの場として、椅子、テーブル、畳部屋、テレビ、ビデオ等を設置した。

②手荷物預かり所の設置

商店街や市日での買い物荷物の一時預かり、及び宅配サービスの実施検討を行った。

③街角ギャラリーの設置

地域消費者、学校、団体等で作成された絵画・写真・習字等の展示や企業が開発した商品の展示・即売を行った。

④チャレンジショップスペースの設置(フリーマーケット等の実施)

商店街に不足している業種の誘致、及び地域住民が販売事業を行うことができるスペースを提供した。

⑤商品一括受注サービスの提供

ファクシミリを利用した商品の一括受注サービスの実施・検討を行った。

⑥趣味・遊びスペースの設置

高齢者や子供を対象に、囲碁、将棋、テレビゲーム等趣味や遊びの場を提供した。

3) 情報提供

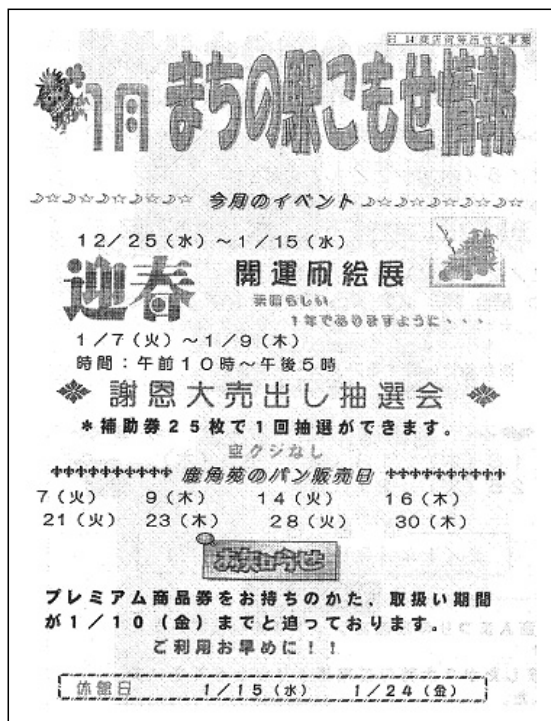
①商店街情報コーナーの設置

②地域企業の紹介や新商品等の情報を提供

③地域イベントや観光施設情報の提供

④ハローワークと連携した求人・求職情報の提供

- 4) 商店街の知識を生かした地域への貢献
- ①商材を使ったカルチャー教室（お魚さばき教室、そば打ち教室等）
 - ②ワイン等を使ったカルチャー教室（ワイン豆知識教室等）
 - ③花を使ったカルチャー教室（フラワーアレンジメント教室等）
 - ④陶芸教室等
- 5) 賑わい創出イベント実施
- ①共同販売促進事業の実施
 - ②企業や団体事業との連携による事業の実施



【効 果】

まちの駅「こもせ」の利用状況をみると、消費者、地域住民の集い・憩いの場として数多く利用されていることから、コミュニティの場としての機能が確立されたと思われる。また、各種イベント等の開催により商店街への来街者が増加し、賑わいが出てきた。

まちの駅のチラシ

- (1) 7月12日のオープン以来、利用者は8ヶ月間で14,203名（男性6,047人、女性8,156人）に達した。年代別にこれをみると、最も多いのが60代以上の5,266人、続いて50代の2,854人、40代の1,773人、10代以下の1,446人となっており、高齢者や子供の利用が多いことが分かる。月別の来館者状況をみると、最も多いのが8月の4,567人、続いて7月の2,272人、11月の1,586人、12月の1,426人となっている。これはイベント（北の盆2003、七夕まつり、月山神社等）の開催が集客に寄与したものである。
- (2) 毎週火・木曜日の午後4時から5時30分まで、知的障害者更生施設「鹿角苑」の協力によるパンの販売や商店街の有志による軽食コーナーの開設が、集客につながっている。
- (3) 各商店街においても来店者が増えたという印象があり、多少ながらも売り上げの増加につながった。店主のアンケート調査からも大満足、満足という回答が76.5%あり、更に継続して欲しいという回答は約90%に達し、店主からも一定の評価がされたと考えられる。平成15年度も毛馬内本町通り商店街振興組合が継続して実施している。

【課題・反省点】

まちの駅「こもせ」の果たす機能として、来街効果は徐々に上がってきているが、各個店への呼び込み、売り上げを上げるところにまでは至っていない。今後の対応、取り組み方について店主自身が考えることで、意識改革につなげたい。

来館者アンケートから判明した、本事業の評価と今後の課題は下記の通りである。

- (1) コミュニティの場としての機能は評価されており、利用者も今後の継続を大いに期待している。

- (2) 評価の前提となっているのは、①食事ができること、②接客が明るく、感じがよいこと、③寒い戸外に対してあたたかく、ほっとできる空間になっていること、④パソコンなど小中学生にとっても興味のある設備があること、などである。
- (3) 今後は来館者がほっとできる、心からリラックスができる空間づくりのために、①食事メニューと味の研究、②快適な施設空間づくり（清掃・整理整頓・設備の充実）、③イベントや展示販売、ギャラリーのような利用者参加型の企画の充実について検討を重ね、より充実した施設として、今後も継続して運営していくことが望まれる。

【 関 連 U R L 】

鹿角市十和田商工会 <http://www.ink.or.jp/tsyoukou/index.html>